

ケアマネだより

第15号
平成28年11月発行

- ◆ 社協理念 あたたかい手 やさしい心で つなげよう 福祉の輪
- ◆ 経営理念 おもいやりと 笑顔の介護で 地域福祉を支えます



日増しに寒さが身に染みる季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の雪の降り具合も気になりますね。魚沼の冬は長いですが、そのぶん春が来た時の嬉しさは格別のように思います。

さて、今回は、この時期ご高齢の方に多い「低温やけど」について説明したいと思います。

冬に低温やけどが多いのは？

- * ストーブやコタツに長時間当たったため
- * カイロを皮膚に近い場所に長時間貼っていたため
- * 寝ている間、湯たんぽや電気毛布を当て続けたため

など様々な原因があります。

特に高齢者は、温度を感じる感覚が鈍くなっており、「熱い」と感じずに長時間過ごしてしまうことがあります。諸説ありますが、健康な人でも44℃では3～4時間、50℃では2～3分で皮膚が損傷を受けるそうです。

低温やけどの症状は？

「熱い」という自覚のないままやけどを起こし、痛みも少ないため、症状は一見軽く見えますが、皮膚の深部まで炎症が起きていることが少なくありません。皮膚の表面のたんぱく質が変質しており、その部分から感染症が広まったり、一部が壊疽してしまうこともあります。普通のやけどと違い、皮膚の奥深くでじっくり進行してしまうのが低温やけどです。普通のやけどよりも重症化し、治療に数か月要することもあるそうです。

低温やけどかな、と思ったら…

軽症だと思ってもアロエや味噌を塗るなどの民間療法はせず、必ず医療機関を受診しましょう。

低温やけどをしないために…

コタツでうたた寝をしない、同じ姿勢でストーブに当たらない、湯たんぽやあんかは布団が温まったら取り出す、電気毛布などは高温に設定しない、寝る時はカイロは貼らない、など、ご家族間で注意し合えるといいですね。

お知らせ 当事業所はかねてより特定事業所加算Ⅱの要件を満たしておりましたが、10月からは、専門性の高い人材の確保や支援困難ケースへの対応など、さらに多くの要件を満たした事業所として特定事業所加算Ⅰを算定できることになりました。ご利用者様への費用負担はございませんが、今後ともより質の高いケアマネジメントを実施し、皆様から信頼を得られるよう努力してまいります。

編集後記

私は柑橘系が苦手なのですが、風邪予防や疲労回復には1日2～3個のミカンがいいらしい、と聞きました。たまには食べてみようかなあと思います。 悠花

在宅介護支援センター湯之谷

魚沼市大沢213-1 湯之谷基幹集落センター内
025-792-8184

(24時間対応致します)

